水源の森（テロロの森）創出の市民参加の植林ボランティア活動

大館自然の会　明石良蔵

１．水源の森づくりの趣旨・目的

大館自然の会は、「地域に自然保護憲章を実現する」ことを目的とし、昭和 63 年 4 月、市内の自然愛好者によって結成された市民団体です。目的を達成するため「ふるさとの、きれいな空気と水、美しい自然景観、かけがえのない動植物などを守り、次世代に残す」ことを基本目標として掲げ、そのために具体的な啓発活動、調査活動、実践活動を多数の市民参加によって推進し、継続的に取り組んでいます。

表題の活動は、会の活動の基本目標（ふるさとのきれいな空気と水を守り、次世代に残す）を実現させるための具体的な活動の実践です。

大館市街地の中心部を流れる長木川は、かつて流量の多い生態系の豊かな清流でしたが、現在は流量が少なく、たいした大雨でもないのに濁り水の流れるような川になりました。その原因の一つに、水源地の植生の荒廃が考えられます。それは、この川の上流部に、何回かダム建設が計画（着工前に建設中止）されたことからも裏付けられます。川の水量の長期的な安定確保には水源地の森林の持続的な育成が不可欠といわれています。

当会は植林事業には全く素人の市民団体ですが、ふるさとの自然再生を願う自然保護団体として、ふるさとの川の水源地に保水機能の高い広葉樹の森を創出しようと考えました。それは、地球温暖化防止の地球規模の課題に、地域の足元から応える実践でもあり、水源地の生物多様性の保全にも貢献するであろうと考えました。

本報告は以上の趣旨のもとに、取り組んだ市民団体による植林活動の経過を紹介するものです。今後の活動の発展のため、多くの方々からご指導、ご助言を賜りたいと思います。

２．水源の森づくりをめざしてどんな取り組みをしてきたか

（１）取り組みの概略と問題になったこと

水源の森づくりの取り組みは、当初、「体験林業制度」を利用して平成７年度からはじめました。その取り組みは、「馬場目川上流部にブナを植える会」の活動経験に学んだもので、当時の大館営林署長さんに申請し、同氏のご理解と暖かいご指導ご支援により実現できたものです。平成 12 年度からは、米代東部森林管理署の「ふれあいの森における活動希望者募集」の公募に、当会が応募して事業の実施主体として選定されたことにより、当初の水源の森づくりの趣旨・目的を引き継いで活動を継続してきました。「ふれあいの森事業」の発足に当たっては、米代東部森林管理署長と当会との間で、「ふれあいの森における森林整備等の活動に関する協定書」を取り交わし、実施主体の活動のガイドラインとしています。また、協定書の第 2 条により、ふれあいの森の名称「テロロの森」と命名しました。テロロとは、日本各地の水源地帯のブナ林に生息するアカショウビンのこの地方の呼び名です。当会がすすめている水源の森づくりのブナ植林活動が将来にわたって継続され、テロロの住みつくような立派な森が出

来上がるように願いを込めて命名したものです。

概略以上のような８年間の植林活動のなかで問題となった事柄は次の通りです。

① 低山帯にブナを植林することへの疑問をどう解消するか

② 水源地帯の中に植林地をどう確保するか

③ ブナ植林に必要な資金をどう確保するか

④ 植林活動への多数の市民参加の体制をどうつくるか

以下、次項の（２）～（５）において、これらの問題にどのように取り組みをしたかを報告します。

（２）低山帯にブナを植林することへの疑問をどう解消したか

＊植物地理学上、かつてブナの生育帯の下限が海岸地帯にも達していたこと、＊当地方は気候条件等から冷温帯に位置し、低地でもブナの生育が可能であること、＊縄文時代の遺跡から当地方の台地でもブナが育っていた形跡があること、＊大館市長根山公園の散策路に沿って植えたブナが40年ほど順調に成長していることなどを例にあげて疑問解消に努めました。しかし、この疑問は実践によって解決することが一番だとして、当面、ブナの植樹本数を少なくして、植樹後の経過をみて本格的な植樹を実施することにした。そこで平成７年300本、平成８年700本ブナの苗木をそれぞれ別の場所に植樹し、生育の様子を見守った。その結果、11月初旬ブナの苗木が冬眠状態に入ってから植樹すると、虫による害もなく、枯れることもなく、９０%以上が順調に芽吹き、成長することが確認された。また、積雪による倒伏を防ぎ、下草の繁茂に負けないためには、高さ１．５m以上の苗木がよいことが分かった。植樹当時根元の太さ（直径）が２cmのものが、８年後６cm～８cmに成長した。

（３）水源地帯の中に植林地をどのようにして確保したか

平成７年体験林業制度を利用して、水源の森づくりの植林活動を始めようとした当初は、水源地帯は、３０数年前スギ伐採跡地に隙間がないほど杉の植林がていねいに整然と行われた区域で、ブナを植える場所はほとんどなかった。そこで、当時の木材集積場跡とか事業所の建物のあった跡地を探して、ヤナギやオオザサを刈払って植林地を確保した。その後、ふれあいの森事業に移行して、３．４３haが用意され、土地は確保できたがオオザサが密集するニセアカシヤの疎林なので地拵えに苦労することになった。

（４）ブナ植林に必要な資金をどう調達したか

当会の活動は、多数の市民参加によって推進することを基本方針としていますから、水源の森づくりに必要な苗木購入費、植林参加者輸送用バス借り上料などの経費は、原則として市民募金によって確保することとしました。高さ 1.5mの苗木は１本 500円で、参加者輸送費などを加えると、ブナ１本を植える費用として1000円～1300円を必要としますから、水源の森づくりの資金として１人1000円以上を募金してくださいと広く市民に訴え、「ブナ資金口座」を設けて管理しました。最初の１年間の取り組みには、多くの市民からのご支援があり総額814、820円の募金がありました。しかし募

金に応じる方々が限定される傾向にありましたので、水源の森創出のブナ植林の目的に対する理解をもっと広く多くの市民へ訴えることが必要でした。これは、植林作業への参加者の拡大にもつながりますから、当会会員 220 名が中心となってチラシを配布し積極的に取り組みました。募金総額は次通です

①平成 07 年度	８１４、８２０円
②平成 10 年度	３３８、８３７円
③平成 11 年度	５、０００円
④平成 12 年度	５、０００円
⑤平成 13 年度	２９８、１５０円
⑥平成 14 年度	４２３、９４０円
⑦平成 15 年度	３８０、１９１円
合　　計	２、２６５、９３８円

最近、水源確保や地球温暖化防止のための森林の役割が重要視されるようになり、各種法人や企業などが率先して、環境保全活動を助成する基金財団を組織しています。

当会は植林活動の資金の支援を受けるため、それらの団体の助成事業の公募に応募したところ、次の諸団体から助成金が提供されました。ここに、感謝を表したいと思います。

①	平成 13 年度	国土緑化推進機構	１、０００千円
②	平成 14 年度	イオン環境財団	３００千円
③		国土緑化推進機構	２８５千円
④	平成 15 年度	セブン－イレブンみどりの基金委員会	５００千円
合		計	２、０８５千円

（５）植林活動への多数の市民参加の体制づくりをどうすすめたか

当会の会員は２２０名（世帯数では１８０）ですが、年齢構成では、中高年の主婦と退職者の男性が主たる活動メンバーです。諸事情で植樹当日実際に作業に参加できる人数は３０名前後ですから、この事業を将来にわたって継続的に実施するためには会員以外の一般市民と小中学生、高校生、青年のみなさんの参加が必要です。そのため、毎年、水源の森づくりの重要性訴えるチラシを作成し、各種の市民団体、公共団体に配布しました。また、長木川流域に位置している小中学校 5 校、短期大学１校を訪問し、教師を通してチラシが児童生徒・父母、学生に届くように依頼しました。小中学校の参加申し込みの受付、参加者への連絡等の業務は直接当会事務局が行い、学校への負担がかからないようにしました。さらに、参加者全員の傷害保険に加入し、安全管理の万全をはかりました。その結果、水源の森づくりのメイーン行事の「長木川源流にブナを植える市民の集い」には８０名～１２０名の方々が参加された。そのなかで、小中学生は毎回２５名前後、短大学生ボランティアは毎回２０名前後の参加で、輸送にはマイクロバス５台をチャーターしました。

植樹の事前活動の地拵え、穴掘り作業の参加者は会員のみであり、また、事後活動の下草刈り作業への参加者は会員と短大学生ボランテイアだけですので、今後、各階層の人々へ参加者の拡大をすすめる取り組みが必要です。

3．水源の森づくりの成果と今後の課題

（1）水源の森づくりの実績

これまでの８年間の実績を下記の表にまとめました。

平成年度	植林本数	植林面積	植林活動参加者数	下草刈参加者数
7	３００本	０．１４ｈａ	１１８名	
8	７００	０．２３	１６４	１２名
9	植樹後の観察			４９
１０	２５０	０．１０	９４	１８
１１	５０	補植	３７	４９
１２	１００	０．１０	８２	３８
１３	１０００	１．００	１５０	４５
１４	６００	０．７０	１６４	７６
１５	５００	０．６０	１３３	５９
合　計	３５００本	２．８７	９４２名	３４６名

（2）水源の森づくりの今後の課題

当会は今年結成１７年目の活動に入りますが、会の役員構成が老齢化しており、水源の森づくりをリードするためには役員の若返りが必要です。また、この活動は将来にわたって持続しないと意義のないものですから、活動に参加する若い後継者の育成が不可欠です。今後、若い人たちへ意識的に積極的に参加を訴えることが必要です。。

植林事業を持続させるための資金の確保については、運用資金の財源として自己資金がないと、支援団体への助成金も申請できないので、「ブナ資金」の市民募金の継続がどうしても必要です。また、助成金確保のためには、支援する財団、企業等との協力関係を保ち、年度ごとに交互に活用できるように、会の体制を整えておくことが重要と考えます。

この活動の作業に参加した人々を、単なる労働力の提供者と考えないで、水源の森づくりの目的を達成するためのかけがえのない担い手として尊敬し、植林活動への参加者が、地球規模の危機を救う崇高な事業に参加しているのだという自覚と誇りを共有できるように、スタッフは、心をこめて行事の運営に取り組む必要があります。

添付写真の説明文（同封の写真の裏面に記した黒番号に従って）

1　平成 08 年度　７００本のブナ植林直後の状況
2　平成 10 年度　ブナ植林に参加した地元の小学校のこどもたちと校長先生
3　平成 12 年度　テロロの森開設準備の下草刈りを終えた大館自然の会スタッフ
4　平成 15 年度　テロロの森植林掲示板
5　平成 15 年度　親子の参加でブナを植える
6　同　ブナ植林に参加し頑張る短大生
7　同　ブナ植林に参加した中高年のみなさん
8　同　ブナ植林に参加した中学生たち

よみがえれ 源流の自然

よみがえれ 源流の自然

テロロの森
ブナ植林地

2003年テロロの森ブナ植林事業
この事業は、長木川水源地のかん養と自然環境の復元、地球温暖化防止を目的とし、セブン－イレブンみどりの基金の助成金と市民及び会員からの募金によるブナ資金を財源として多数の市民のボランティア活動によって実施されたものです。
平成15年11月2日　実施主体　大館自然の会

長木川源流にブナを植える集い
主催 大館自然の会